

第九

特別演奏会 2023

指揮

広上淳一

[フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)]



©山本倫子

指揮

小林研一郎

[桂冠名誉指揮者]



◆ 12月16日 日 17:00

横浜みなとみらいホール

[第 393 回横浜定期演奏会]

◆ 12月17日 月 14:00

サントリーホール

ソプラノ: 竹下みづ穂 アルト: 但馬由香

テノール: 工藤和真 バリトン: 池内 響

合唱: 東京音楽大学 (12/16)

日本フィルハーモニー協会合唱団 (12/17)

ケルビーニ: 歌劇《アナクレオン》序曲

ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》

チケット料金 (全席指定・消費税込)

S ¥9,000 A ¥7,500

B ¥7,000 C ¥6,000

Ys (25歳以下) ¥3,500

Gs (65歳以上) ¥6,000 (12/16 除く)

好評
発売中!

【日本フィル・サービスセンター】

☎ 03-5378-5911 (平日 10時~17時)

日本フィル e チケット

<https://eticket.japanphil.or.jp>

◆ 12月21日 木 19:00

横浜みなとみらいホール

◆ 12月22日 金 19:00

サントリーホール

◆ 12月25日 月 19:00

東京芸術劇場

◆ 12月26日 火 19:00

東京芸術劇場

◆ 12月27日 水 19:00

東京芸術劇場

オルガン: 石丸由佳

ソプラノ: 小川菜奈 (12/21-25)、市原 愛 (12/26, 27)

アルト: 山下牧子

テノール: 錦織 健 (12/21-25)、笛田博昭 (12/26, 27)

バリトン: 大沼 徹 (12/21, 25)、青戸 知 (12/22)、

青山 貴 (12/26, 27)

合唱: 東京音楽大学 (12/21, 22)、武蔵野合唱団 (12/25)、

日本フィルハーモニー協会合唱団 (12/26, 27)

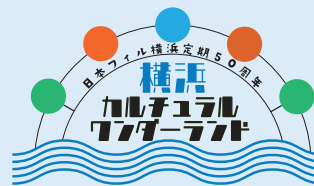
J.S. バッハ: 高き天よりわれは来たり BWV738

主よ、人の望みの喜びよ BWV147

トッカータとフーガ BWV565

(以上 3 曲 オルガン独奏)

ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

——創立指揮者 渡邊 暁雄——

日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第392回

横浜定期演奏会

392nd YOKOHAMA Subscription Concert

2023年11月25日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm November 25th(Sat.), 2023, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞社、+vkc、シンガポール共和国大使館

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))

独立行政法人日本芸術文化振興会



文化庁



日本フィル横浜定期演奏会 50周年 〈横浜カルチュラル・ワンダーランド〉

もっと楽しく、もっと面白く、より深く！〈横浜カルチュラル・ワンダーランド〉をコンセプトに、歴史、美術、文学…文化と音楽が響き合う新しいコンサートの楽しみ方を発信いたします。コンセプト監修に横浜国立大学教授の小宮正安氏を迎え、知れば知るほど楽しい時間をお届けしてまいります。

朝日カルチャーセンター横浜教室

横浜定期関連講座 第7弾 開催決定！

『社会文化史から読み解く』

「名ピアニスト」と「オーケストラ」の関係』

～ショパン『ピアノ協奏曲第2番』、

サン＝サーンス：交響曲第3番《オルガン付き》等をめぐって～

西洋音楽の歴史において、名音楽家といえば、作曲はもちろん、鍵盤楽器をはじめとする他の楽器、さらには指揮もできる存在が当たり前でした。ですが、世の中の分業体制が進む中で『ピアニスト』という専門家が登場するようになると、こうしたマルチタレント的な音楽家のあり方は崩れてゆきます。この講座では、古き西洋音楽の伝統がまだ辛うじて保たれていた時代に活躍した『名ピアニスト』のショパンやサン＝サーンスに焦点を当てながら、彼らが自らの作品でオーケストラとどのように向き合っていたのかを、社会文化史の視点から探ります。

2024年2月4日(日) 14:00～15:30

講師：小宮正安(横浜国立大学教授)、他

3月の横浜定期で取り上げるサン＝サーンスの名シンフォニー《オルガン付き》と4月のショパンを題材に、その名曲たちが誕生した背景を小宮正安氏の講義と日本フィル楽員の演奏解説で紐解きます。

目眩く展開されるドラマをカーチュン・ウォンの指揮で

1957年に日本フィル創立指揮者渡邊暁雄と日本フィルによって初演された「管弦楽のための木挽歌」は、民謡や和太鼓が随所に盛り込まれ、日本人のDNAを沸き立たせずにはいられない名作です。福間洸太郎さんを迎えたプロコフィエフの3番は、日本の伝統音楽の一つ《越後獅子》の旋律を想わせたり、ハイスピードな超絶技巧を味わえたりと、聴きどころ満載の傑作です。そしてチャイコフスキー最後の交響曲《悲愴》は、第一楽章を彩る一つの時代も心震わす名旋律、少し歪んだ5拍子の第二楽章、異常なまでのヴォルテージュで聴き手を魅了する第三楽章、そして文字通りの悲愴感と謎に満ちたフィナーレ…。木挽歌から協奏曲、そして最後のシンフォニーに至るまで、目眩く展開されるドラマをカーチュン・ウォンの指揮でご堪能ください。

Programs

小山清茂：管弦楽のための木挽歌 (約12分)

KOYAMA Kiyoshige: Kobikiuta

プロコフィエフ：

ピアノ協奏曲第3番 ハ長調 op.26 (約28分)

Sergei PROKOFIEV: Concerto for Piano and Orchestra No.3 in C-major, op.26

—— 休憩 (15 分) Intermission ——

チャイコフスキー：

交響曲第6番《悲愴》ロ短調 op.74 (約46分)

Pyotr TCHAIKOVSKY: Symphony No.6 "Pathétique" in B-minor, op.74

※当初の予定から変更になりました

指揮：カーチュン・ウォン [首席指揮者]

Conductor: Kahchun WONG, Chief Conductor

ピアノ：福間洸太郎

Piano: FUKUMA Kotaro

コンサートマスター：扇谷泰朋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：門脇大樹 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello



指揮：
カーチュン・ウォン
〔首席指揮者〕

日本フィルハーモニー交響楽団首席指揮者およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者を務めるシンガポール出身のカーチュン・ウォンは、その舞台における圧倒的な存在感と東洋と西洋の芸術的遺産を探索し続ける思慮深さにおいて国際的に高く評価されている。2025年秋からはサー・マーク・エルダー氏の後任として、英国マンチェスターに本拠を置くハレ管弦楽団の首席指揮者兼アーティスティック・アドバイザーに就任することが決定している。

2016年グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールで優勝。ニューヨーク・フィルハーモニック、クリーヴランド管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする著名なオーケストラに客演。

ウォンは多くの現代作曲家と強い信頼関係を築いており、今シーズンはバービカン・センターでBBC交響楽団と共に細川俊夫の《祈る人》の英国初演、およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者就任記念演奏会のために特別に委嘱された、タイの作曲家ナローン・ブランチャルーンの《影の反映》の世界初演、また2022年には高名な導師でありインド人ヴァイオリニストであるカラ・ラムナスのために書かれた、レーナ・エスマイルの「ヒンドゥスタンヴァイオリンのための協奏曲」をシアトル交響楽団演奏にて世界初演したほか、2019年にはニューヨーク・フィルハーモニックとタン・ドゥン（譚盾）の《火の儀式》の米国初演を指揮している。国内においては日本フィルハーモニー交響楽団とのサントリーホール定期公演シリーズにて伊福部昭、芥川也寸志、小山清茂、外山雄三らの作品を定期的に演奏している。2022年、東京オペラシティ財団の招聘により、武満徹の意欲的な作品《弧（アーク）》を中心とした管弦楽作品を集めた公演を大成功に導き、日本の主要批評家によってその年の最も優れた演奏会の一つに選ばれた。



← YouTube チャンネル
【5分でわかる大人のためのオーケストラ入門】
今月のイチオシ

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご希望の方は主催受付までお申し出ください。



感染予防の
ご案内



ピアノ：福間洸太郎

20歳でクリーヴランド国際コンクール日本人初の優勝およびショパン賞受賞。

パリ国立高等音楽院、ベルリン芸術大学、コモ湖国際ピアノアカデミーにて学ぶ。これまでにカーネギーホール、リンカーン・センター、ウィグモア・ホール、サントリーホールなどでリサイタルを開催する他、クリーヴランド管、モスクワ・フィル、イスラエル・フィル、

フィンランド放送響、NHK交響楽団など国内外の著名オーケストラと多数共演、50曲以上のピアノ協奏曲を演奏してきた。CDは『バッハ・ピアノ・トランスクリプションズ』（ナクソス）などをはじめ多数録音しており、2023年4月21日にはNAXOS JAPANより19枚目のCD『幻想を求めて―スクリャービン&ラフマニノフ』をリリースした。そのほか、珍しいピアノ作品を取り上げる演奏会シリーズ『レア・ピアノミュージック』のプロデュースや、OTTAVA、ぶらあぼ web stationでの番組パーソナリティを務め、自身のYouTubeチャンネルでも、演奏動画、解説動画、ライブ配信などで幅広い世代から注目されている。多彩なレパートリーと表現力、コンセプトチュアルなプログラム、また5か国語を操り国内外で活躍中。テレビ朝日系『徹子の部屋』や『題名のない音楽会』などメディア出演も多数。第39回日本ショパン協会賞受賞。

公式サイト <https://kotarofukuma.com/>

公式ファンクラブ <https://shimmeringwater.net/>



© István Kohán



今日のコンサートの聴きどころは？

音楽評論家八木宏之さんの
楽しい解説をお楽しみください！

16時20分
より
大ホール内
にて♪

八木宏之（やぎ ひろゆき）● 1990年東京生まれ。青山学院大学文学部史学科芸術史コース卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程（修士：音楽学）およびソルボンヌ大学音楽専門職修士課程（Master 2 Professionnel Médiation de la Musique）修了。2021年春にWebメディア『FREUDE』を立ち上げ、その運営を行う株式会社メディアアシオンを設立。クラシック音楽を中心に、プログラムノートやライナーノーツを多数執筆するほか、コンサートのブレットークなども積極的に行っている。

お客様へのお願い●演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チャリ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

小山清茂：管弦楽のための木挽歌

小山清茂 (1914-2009) は長野の生まれ。教鞭をとりながら作曲を学び、日本に古くからある旋律をモチーフにした作品を多く残した。管弦楽のための木挽歌は、1957年に渡邊暁雄指揮日本フィルの演奏によって初演され、以来日本人作曲家による管弦楽作品の中でも最も愛されている作品の一つとなっている。

1954年にNHKで放映された三好十郎 (1902-1958) 作のラジオ音楽劇『破れわらじ』のために書かれたオリジナルの民謡が、この管弦楽のための変奏曲の素材となった。以下は、小山による各楽章の説明である。

第1楽章 テーマ。木挽職人が大鋸で材木を切っている。

第2楽章 盆踊り。山仕事を済ませた職人が村里に帰ってこの唄をうたうと、その素晴らしい節回しが村中に広まって、ついに盆踊りとなった。

第3楽章 朝の歌。職人のうたった唄は、村里で盆踊りになったばかりか、都会にまで流行し、そば屋の出前持ちが、自転車に乗って口笛いて行く。

第4楽章 フィナーレ。民謡の持つ生命力のたくましさを讃えた楽章。

楽器編成 ピッコロ1、フルート1、オーボエ2、クラリネット2 (バス・クラリネット持替1)、テナー・サクソフォン1、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、シンバル、銅鑼、締太鼓、櫓太鼓、鉄琴、マリンバ、ハープ1、ピアノ連弾 (チェレスタ弾替1)、弦楽5部。

プロコフィエフ：ピアノ協奏曲第3番 ハ長調 op.26

先鋭なモダニズムの手法でロシア音楽界に衝撃を与えたセルゲイ・プロコフィエフ (1891-1953) は、1918年にロシア革命に揺れ動く祖国を去り、長らく異国での亡命生活を続けた。しかし、結局1932年にはソヴィエト政権下の祖国に帰国し、作風も一般大衆に受け入れられる平易さを持つものへと変容してゆく。

プロコフィエフが残した5曲のピアノ協奏曲は、いずれも彼のソ連復帰以前に作曲されたもの。第3番は1917年のロシア革命時に着手され、その後シベリア、日本経由でアメリカに亡命、コンサート・ピアニストとしても高い名声を得ていた1921年にパリで作曲された。

楽曲は伝統的な3楽章からなり、当時のヨーロッパ音楽界の風潮であった新古典主義風のスタイルの中に、プロコフィエフの持ち味である時代の最先端をゆくようなメカニクな嗜好、また土俗的な色彩 (そうした意味では、19世紀のロシア音楽に大きな発展をもたらした「国民楽派」の伝統を継いでいるといえるかもしれない)、さらにソ連復帰後の諸作品に顕著に現われる大衆的な抒情性が、生命力豊かに全曲を支配している。なお第3楽章に現われる主題は、プロコフィエフが日本を訪れた時に聴いた長唄「越後獅子」にヒントを得たとされるものである。

第1楽章：アンダンテ〜アレグロ

自由なソナタ形式に基づき、抒情性と熱狂、華麗さと野性味が次々と攻守をかえて出現する。プロコフィエフの尖がりぶりが鋭く迫る楽章だ。

第2楽章：アンダンティーノ

主題と5つの変奏から成り立つ。特に後半部分、輝かしい長調が崩れ、不気味な短調に終結してゆく箇所は、プロコフィエフの諧謔精神の極み。

第3楽章：アレグロ・マ・ノン・トロppo

プロコフィエフ自身が、ピアノとオーケストラの「討論」と呼んだ、ロンド形式の楽章。時には丁々発止と渡り合い、時には協調しあう両者の関係が、随所にきらめく。

楽器編成 独奏ピアノ、フルート2 (ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、タンブリン、カスタネット、弦楽5部。

チャイコフスキー：交響曲第6番《悲愴》ロ短調 op.74

西ヨーロッパの高度な作曲技術を身につけたうえで、スラブ民族の血が通った情感豊かな旋律を用い、19世紀に一世を風靡した「国民楽派」の先をゆくロシア音楽の可能性を切り開いたピョートル・チャイコフスキー (1840-1893)。この曲はそんな彼が死を迎える1893年に書かれ、初演されている。すでに全ヨーロッパに名声を高めていた彼自身が、「私の一生で一番良い作だ」とたびたび語ったと伝えられている自信作となった。

なお《悲愴》という標題自体、チャイコフスキーの同意のもとで生まれたことが、最近の研究では分かっている。初演の際のポスターにこそこの標題は記されていなかったものの、楽譜出版に際しては標題を付けてほしい、とチャイコフスキー自身が希望する手紙が残されているほど。

ただしその一方で、何かある特定の物語や聴き方をチャイコフスキーが切望していたわけでもなさそう。じっさい彼は甥のダヴィドフへの手紙に「(この交響曲には) 標題性があるが、それは誰にも謎であるべきで、想像できる人に想像させよう。この標題性はまったく主観的なものだ。私は旅行中にこれを作曲しながら幾度となく泣いた…」と書き送っている。

なおチャイコフスキーは、この曲が初演された直後の11月6日に急逝してしまう。そのあけない人生の幕切れについては毒殺説もささやかれ、当交響曲の暗く神秘的な幕切れと相まって、多くの憶測を呼び起こすことになった。

第1楽章：アダージョ — アレグロ・ノン・トロppo

コントラバスが最弱音で出す虚ろな低音の上に、ファゴットがつぶやくように表れる陰鬱な導入部と、中間部に表れる威嚇するような激烈さの対象が印象的である。

第2楽章：アレグロ・コン・グラツィア

4分の5拍子という珍しいテンポを用いた、舞曲風の楽章。軽快な中にも、不安定な儚さが付きまとっている。

第3楽章：アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ

スケルツォと行進曲を合わせた活発で動きのある楽章。チャイコフスキーらしい華やかな音楽のオンパレードだが、異常なまでのハイテンションがかえって不安感をおおる。

第4楽章：アダージョ・ラメントーソ

一般の交響曲なら壮麗で快活に締めくくられるべき終楽章が、この上ない哀切さ、嘆き、苦悩で満たされている。悲しみや絶望を描きつくした幕切れに、チャイコフスキーは何を託したのか。

楽器編成 フルード3 (ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2 (バス・クラリネット持替1)、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、銅鑼、弦楽5部。



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安



「辺境」が生み出す「斬新」

便利なはずの「中央」にいないからこそ、予想外のオリジナリティが受け手に突き刺さる…。たとえば文学では、東京から遠く離れた岩手に生まれた宮沢賢治、あるいはオーストリア支配下のボヘミアで活躍したカフカがその典型だろう。

同じことが、音楽の世界にも当てはまる。19世紀に生まれたロシアの「国民楽派」は、それまで西ヨーロッパからの借り物にすぎなかったクラシック音楽を、文字通りロシアの風土に根差した存在とするために、あえて土臭い香りの作品を書くことを専らとした。また逆にそうした動きがあったからこそ、「国民楽派」の伝統からいったん離れた上で、それでもロシア的要素と西欧の音楽的伝統とを融合させたチャイコフスキーが出現した。あるいは、あえてロシア的な要素を極端なまでに誇張し、それを通じて破壊的なエネルギーの表出を目指したプロコフィエフの活躍があった。小山清茂も、クラシック音楽の「本場」であるヨーロッパから遠い日本で生まれ育つ中、民謡を採り入れた作品を幾つも作った点で、日本における「国民楽派」と言えるだろう。

逆にいえば、特に19世紀後半以降、西洋クラシック音楽の「本場」であり「中央」であったはずの西ヨーロッパは、急速な発展の末、様々な問題を抱え始めていた。公害や金融恐慌の度重なる発生、貧富の差の拡大…。そうした中で、当の西ヨーロッパの音楽家たちは、行き詰まりを見せ始めた自らを取り巻く世界に斬新な風を採り入れるべく、あえて「辺境」の要素を採り入れてゆく。ロンドン、パリ、そしてウィーンで催された万国博覧会における日本の出展を通じて広まったジャポニズムしかり。ロシア出身のチャイコフスキーやプロコフィエフが、その独特の作風によって西ヨーロッパ各地で受け入れられていったことしかりである。

こうして、西ヨーロッパ発祥のクラシック音楽は…オーケストラも含めて…、「中央」と「辺境」の力関係の変化によって、世界中に広まった。またそのことを端的に物語る本日のプログラム、さらにそれを演奏するウォン&日本フィルのコンビなのである。



明治政府になって初めて日本が出展したウィーン万国博覧会(1873)。写真はメインパヴィリオン、通称「ロトゥンデ」

Next YOKOHAMA

第393回 横浜定期演奏会

2023年12月16日(土) 17:00 横浜みなとみらいホール

指揮: 広上淳一 [フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)]

ソプラノ: 竹下みづ穂 アルト: 但馬由香

テノール: 工藤和真 バリトン: 池内 響

合唱: 東京音楽大学

ケルビーニ: 歌劇《アナクレオン》序曲

ベートーヴェン:

交響曲第9番《合唱》二短調 op.125



広上淳一

S ¥9,000 A ¥7,500 B ¥7,000 C ¥6,000 P 合唱団 Ys (25歳以下) ¥3,500

※ Ys席はS席以外から選べます。

※ 障害者手帳をお持ちの方は、サービスセンターへお問い合わせください。

好評発売中!

ニューイヤーコンサート2024 第252回 芸劇シリーズ

2024年1月14日(日) 14:00

東京芸術劇場

指揮: 川瀬賢太郎

ピアノ: 清水和音

チャイコフスキー:

歌劇《エフゲニー・オネーギン》より「ポロネーズ」

チャイコフスキー: ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23

J. シュトラウスⅡ世: ポルカ《ハンガリー万歳》op.332

ブラームス: ハンガリー舞曲第5番

J. シュトラウスⅡ世: ワルツ《南国のバラ》op.388

レスピーギ: リュートのための古風な舞曲とアリアより「シチリアーナ」

J. シュトラウスⅡ世: 喜歌劇《こうもり》序曲

S ¥7,000 A ¥5,500 B ¥5,000 C ¥4,000 Gs (65歳以上) ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

Ys (ヤング・シート)、Gs (グランド・シート) はS席以外からお選びいただけます。



清水和音



川瀬賢太郎

■オーケストラガイドに新メンバーが登場！

横浜定期演奏会限定「オーケストラガイド」に八木宏之さん、布施砂丘彦さんが加わるようになりました。小宮正安さんとの三人体制で聴きどころをご案内いたします。お楽しみに！

■テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組！『Welcome クラシック』BS 朝日 毎週水曜日 22:54～23:00（第3週、第4週は再放送）。1月からは首席指揮者カーチュン・ウォンも登場。ぜひご覧ください！

■本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です。

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

もうすぐ発売！

11/28 発売

2023/2024 春季東京定期演奏会 会員券
2023/2024 春季横浜定期演奏会 会員券

12/6 発売

コバケン・ワールド Vol.36

2024年3月17日（日）14:00 サントリーホール

指揮：小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

フルート：真鍋恵子 [首席奏者]

ドビュッシー：小組曲

モーツァルト：フルート協奏曲第2番

ベルリオーズ：幻想交響曲

S ¥6,800 A ¥5,300 B ¥4,200 P ¥3,200
Ks ¥1,500 Gs ¥4,500

12/1 発売

2023/2024 春季セット券
(4/28・5/26・6/2)

12/13 発売

第253回芸劇シリーズ

2024年3月10日（日）17:00

東京芸術劇場

指揮：鈴木織衛

出演：SUPER BRASS STARS

和泉宏隆（エリック・ミヤシロ編曲）：島島 他

SS¥7,000 S¥6,000 A¥4,500 B¥4,000
C¥3,000 Ys¥1,500 Gs¥3,000

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

- 公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願いいたします。
- ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。
心より御礼申し上げます。

10月の寄付者 今村 滋、匿名3名

敬称略・五十音順

日本フィル・サービスセンター

〒166-0011
東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911（平日10時～17時）

FAX: 03-5378-6161（24時間）

e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員の特典

横浜ベイホテル東急（横浜みなとみらいホール向かい）にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食：下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。（4名様まで）※除外日および対象外メニューあり

オールディダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/日本料理「大志満」
中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。
※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

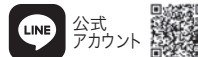
公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

(1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊曉雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッホラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ

- 首席指揮者/カーチュン・ウォン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）/広上淳一

公式X (元 Twitter)
@Japanphil



ソロ・コンサートマスター

扇谷泰朋
木野雅之
田野倉雅秋

アシスタント・コンサートマスター

千葉清加
第1ヴァイオリン
伊藤太郎

太田麻衣
九鬼明子
齋藤政和

榊 渚
竹歳夏鈴
谷崎大起

田村昭博
中谷郁子
西村優子

平井幸子
本田純一
第2ヴァイオリン

遠藤直子
大貫聖子
岡田紗弓

加藤祐一
○神尾あずさ
川口 貴

佐藤駿一郎
末廣紗弓
豊田早織

町田 匡
松川葉月
山田千秋

ヴィオラ
☆安達真理
○江藤史織

小俣由佳
小中澤基道
児仁井かおり

高橋智史
中川裕美子
中溝とも子

松澤雅奈
ホルン
伊藤 舜

宇田紀夫
○信末碩才
原川翔太郎

ソロ・チェロ

門脇大樹
菊地知也

チェロ

石崎美雨
伊堂寺 聡
江原 望

大澤哲弥
久保公人
山田智樹

コントラバス
鈴木優介
○高山智仁

成澤美紀
○宮坂典幸
森田麻友美

山口雅之
フルート
齋藤光晴

難波 薫
○真鍋恵子
オーボエ

佐竹真登
○杉原由希子
○松岡裕雅

クラリネット
○伊藤寛隆
○楠木 慶

照沼夢輝
堂面宏起
ファゴット

大内秀介
○鈴木一志
○古吉佑久子

中川日出鷹
ホルン
伊藤 舜

宇田紀夫
○信末碩才
原川翔太郎

☆丸山 勉
村中美菜

ソロ・トランペット

オッタビアーノ・
クリストフオリ

トランペット

大飼伸紀
◎大西敏幸
中里州宏

中務朋子
星野 究
トロンボーン

◎伊藤雄太
笠間勇登
バス・トロンボーン

中根幹太
チューバ
柳生和大

ティンパニ
□池田健太
◎エリック・パケラ

パーカッション
大河原 渉
ハープ

松井久子
楽団長
中根幹太

チーフステージマネージャー
阿部紋子
ステージスタッフ

長橋健太
森田大翔
チーフインスペクター

佐藤駿一郎
インスペクター
宇田紀夫

鈴木優介
ライブラリアン
鬼頭さやか

杉本哲也
◎首席奏者
◎副首席奏者

☆客演首席奏者
□試用期間

理事長（代表理事）

平井俊邦
副理事長（代表理事）
五味康昌

専務理事（代表理事）

福井英次
常務理事（代表理事）
後藤朋俊

常務理事（代表理事）
中根幹太
理事

石井啓一郎
佐々木経世
田村浩章

戸所邦弘
福本ともみ
監事

上條真夫
福澤宏哉
評議員会会長

加藤丈夫
評議員
青井 浩

安孫子 正
荒蒔康一郎
石塚邦雄

石村 等
稲垣 尚
内川清雄

大塚宣夫
海堀周造
梶浦卓一

河北博文
喜多崇介
木村恵司

久保田 隆
小林研一郎
島田精一

津田義久
西澤 豊
野間省伸

葉田順治
村上典吏子
山口多賀幸

名誉顧問

熊谷直彦
島田晴雄
田邊 稔

アドバイザリー・ボード

小野敏夫
小網忠明
後藤 功

武田隆男
田邊 稔
溝口文雄

コミュニケーション・ディレクター
マイケル・スペンサー
マネジメント・スタッフ

磯部一史
江原陽子
及川ひろか

小川紗智子
荻島里帆
賀澤美和

柏能由紀子
小須田萌
佐々木文雄

澤田智夫
篠崎めぐみ
清水佑香子

杉山綾子
杉山まどか
高橋勇人

田中正彦
榎谷祐子
中村沙緒里

西田大輔
長谷川珠子
藤田千明

別府一樹
益満行裕
宗澤晶子

山岸淳子
吉岡浩子
シニア・パートナー

新井康允
伊波 睦
永島義郎

南部洋一

団友

青柳哲夫
青山 均
赤堀泰江

新井豊治
伊藤恒男
伊波 睦

遠藤 功
遠藤剛史
大石 修

大川内 弘
大味 修
寛 美知子

金本順子
蒲谷隆行
川口和宏

菊田秋一
岸良開城
吉川利幸

木村正伸
小林俊夫
小山 清

斎藤千種
佐々木裕司
佐藤玲子

菅原 光
高木裕子
高木雄司

高木 洋
高倉理実
田沢 烈

立川和男
堂阪俊子
富樫尚代

豊田尚生
中川二朗
永田健一

中務幸彦
奈切敏郎
橋本 洋

平賀紀代子
平賀法子
福島喜裕

松本克己
松本伸二
三本克郎

宮武良平
三好明子
森 茂

山下進三
山科淑子
山本辰夫

渡辺哲雄